

Hermann Kant の „Kormoran“ を巡って

酒 井 府

(X)

その時、例の如く、テラスの入り口のベルとポータブルの電話が同時に鳴り、彼は彼の決意をより詳細に述べる機会を失うが、或るコールサインを待っていた彼は解放され同時に緊張して性急に身を翻し、電話の所へ行こうとするが、Änne が携帯用電話を取り上げ、部屋の中に姿を隠す。そこで彼は Felix に「コールサイン毎に跳び上がる習性を止めたい、差し迫った事への生が私には必要なのだろう。」(43)と述べ、自発性訓練を強調する Felix 対し、怠け癖を身につけるのが以前からの決意であり、落ち着いていたいと云う。Felix はわざとらしいその言い方に納得しないが、Änne から聞いたと云い、例のベルの背後より Ilse によって発見されたメモに話題を転換し、「Kormoran の箱船(避難場所)。調和用メモ」(44)と本当に云われているのかと尋ねる。Kormoran は多分そうではないと云い、箱船は今日、既に記録文書と混同されたと述べ、調和と云うのも言語上の傲慢さであると語る。更に利害関係の調整に起因する不和の夜明けが問題になっており、彼が大きな時代の流れに入り込んでいる事は認めるが、その流れは彼にとってもどうしようもないと述べる。そして彼は人質交換とかナショナリズム的価値観の様な例を挙げて時勢の狂った状況を語り、そう言う事は読まざるを得ず、耳にする事は救いとならないと語る。

此処にはドイツ統一後にも解決されていない世界の状況に関する Kormoran の言葉を借りての Kant の感慨が見られる。

読む事が救いとなるとはオハイオからの人工弁使用説明書の場合は別だと、Kormoran は素早く辛辣に述べ、先程述べた怠け癖は多分不足してはなかった

たがと付け加える。Felix は回答に戸惑うが、その時 Anne が郵便屋 Blauspanner が今一度来ると伝えて来た事、Gerrelind が彼等を待ち侘びている事を二人に呼び掛ける。二人が芝生を横切って戻る途中、Felix は Kormoran に人工弁の十四パーセントの危険性は公的な物で、二つで二十八パーセントと云うのは馬鹿げていると説明し、身の毛がよだつのであれば、注意深く手術をして人工弁を交換すると囁く。それに対し Kormoran は弾が当たらない昔の兵士の慰めに自分を喩え、それは我々の場合は長いこと人工弁が拒否反応を示さぬ事だと述べ、それは別として Felix の助言は必要だと語り、それは調和なのかも知れないが、今は酷いやつの時代だと述べる。しかし今は Baumanova 婦人に普通に挨拶して欲しいと頼む。

かなり酷いついでみたいと言いだすと Kormoran は語るが、それが死のテーマから誕生日への移行を容易にした事を知った。Gerrelind を見た時の喜びも彼女の衣装への驚きも自然なもので、彼女の放縦な服装に彼特有な感慨を述べる。二人の対面は見物であった。彼女は彼女の到来に無関心を示した彼を丁度、憎しみ始めたが止めたと言ひ、許しの印しとして「此処に在るのは貴方への贈り物で、これらの書類を貴方は読んでも良い。」(45)と述べる。彼は例の小包とテープレコーダーを手に取り他の贈り物と一緒にし、読む事は約束していないと云うが彼女の耳に口づけをし、歓迎する。社会主義的挨拶だと Herbert がコメントするが、彼女は「確かに貴方の誕生日で再生の誕生日ですが、Paul、一人の新しい Baumanova の誕生日にさせて下さい!」(46)と云う。誕生に際しては古い物に新しい物が加わる様に、今まで彼女に就いて知られていた事に、彼女のドキュメンタリーフィルムから省いていた物が加わるからであると云う。それに対し Horst Schluziak は彼等が強要してきたもう一人の女性かと溜め息をつく。しかし彼女はあの年月の間違いを熟慮すると、彼や彼の主要省庁の事を語っているのではなく、彼女自身の検閲官としての彼女、何よりも彼女の対話相手達の検閲官としての彼女の事を語っていると述べ、彼女の書類を読んでいた Grit の問いに、彼等の言葉をマイクロフォンやテープレコーダーや原稿に採用しなかった故に、彼等が犠牲者で、今日付で彼等に彼等の発言を

返すのだと云う。

統一後の旧東ドイツのいわゆるインテリゲンチヤの旧東ドイツに於ける検閲を巡る悔恨を語っている。Kant 自身の感慨でもあろう。

旧副大臣 Schluziak は その様な解決策に賛成しないが、彼女は多くをカットした彼女の戦術に責任を感じ、それに対し Kormoran は異論を述べないが、いつもの如く彼は彼女の言葉遣いを問題にし、Grit Schluziak は嘗て全国民に与えられていた言葉を今は友人達が受けていると評論家 Kormoran の言葉を批判する。それに対し、彼女の夫 Horst は半分の国民、社会主義的国民、後から加わった領域の住民に、と彼女の言葉を訂正する。

此処には旧西ドイツに併合された形の旧東ドイツ国民の複雑な感情が皮肉を込めて語られていると言えよう。

彼は Kormoran がその言葉を気かけると思ったが、落胆させられた。Baumanova は彼等に議論をさせたくなかったので、筆跡鑑定家の女性 Gutschlecht に話題を移し、後者が彼女の筆跡の変化から彼女の近い将来の没落を読み取ったと語る。つまり彼女の書いた物が壁崩壊の十一月ではなく、崩壊後の十二月であると見たのだ。故に彼女はその文を発表出来なかった。革命が遅れたなら発表出来たであろうと Ilse は語り、あの転換期を革命と見るか反革命と見るかを問題にし、両者の特徴の何れも純粹の形で起こらなかったと云う点では一致すると述べ、雑種的な物だと主張し、Herbert Henkler は同意する。Schluziak 夫妻はその主張を支持しないが、転換期と云うひるんだ表現があの事の性格を反映しているとの Änne の所見に与する。代議員 Birchel 婦人が口を挟み、Änne との間に齟齬が起こるが、前者は彼女の夫が八十九年夏、彼女と旅行から帰って来て東ベルリンに列車が入った時、少なくとも国境の鉄道線路の土手を綺麗に保つ力のない祖国を見て、「私達は死に瀕している国へ帰って来ている。」(47) と云ったと語り、結局そうなったと述べる。

そう、そうなったのだと Baumanova は同意し、二種類の歴史的事実から来る記録としての西側と東側の二種類の土手は彼女に深い印象を与えたので、彼女はそれを彼女の企画に蓄え、Birchel 婦人の夫の観点と表現を賞賛する。し

かし彼女は中断された話を終わりまで話させてくれと云い、Gutschlecht 以外の人々は補償の権利を、つまり彼女によって短縮された彼等の言葉を短縮されなかった物へ戻す倫理的原状回復の権利を求めて来たと言語。Felix Hassel は彼女の話は占領者(注：西側)の考えだと異論を挟むが、それは私的な物だと彼女は応じ、今は職務上、芸術上の事を更に話すと云い、Gutschlecht に就いてのフィルムに続くのは現代史の他の人物達に関する作品だと述べ、NPD(注：1964年以來の西ドイツ右翼政党ドイツ国家民主党)の Fahnen-Franze、Kopf-Ab-Johannes aus Zäher-Härter-Flinker、爆弾を好んだ Dr.rer.nat.Schnittke を挙げ、Krüger 叔父の孫達にまで至ると語る。別の言葉で言えば Gerrelind Baumanova の動物寓話だと云い、これらの人間達を裁いたと彼女は述べ、彼女は今ある人の所へ出向いていると言う。

Kormoran は Gerrelind の仕分けした原稿を見て、その原稿に書かれている人物達は彼女の犠牲者達であり、彼女の裁判官達なのかと尋ね、彼女が彼等に就いて示した事は事実だったのかどうか、彼等を悪く取り扱ってきたので、彼等はより良くなるのかと尋ねた。それに対し彼女は明確に答えず、それらの素材から彼女に対する法廷を作り上げると述べ、自分を十字架に架けるのかと尋ねた Grit Schluziak に対し、罪があるので、そうするのだと答えた。Herbert Henkler も言葉を挟み、Gerrelind は党派制から離れ、信用に値する物として記録と記録係の間の対話を仕上げたいと語り、その記録映画の色調に就いて尋ねた医師の Hassel に対しそれぞれの記録によって異なると応じ、Kopf-Ab-Johannes に就いて省いた事を今回は採用する事、Birchel 婦人がその相違に就いて理解しがたい思考と考慮の間の関係に関する Dr. rer. nat. Schnittke の講演を、彼が完全な殺人者で爆弾製造家であったが故に、彼女は採用しなかったが、彼は非常に興味深い思考を示しているので、今度は取り上げる事を述べる。医師 Hassel は非常な関心を見せ、Änne は反発するが、Gerrelind は Schnittke が化学者として、ミサイル弾頭等戦争に重要な機器を造り出せるし、心臓弁も造り出せると語る。

禁止されていた主要な単語、心臓弁が口にされ、混乱が人々の間に起こるが、

Hassel が Schnittke の明解なお喋りを当時、採用しなかった事は今では恥と思うかと尋ねたのに対し、Gerrelind は彼女の思い上がりを恥ですと答え、ミサイル弾頭や心臓弁と云う化学に就いて知らなかったのに検閲官を演じたと語る。しかしタブーの言葉をこれ以上語らせない為に Änne がその話は止めようと云い、彼女の映画は良いし、それは化学に就いてではなく、モラルに就いて取り上げている様に思えるとその場を取り繕う。また禁止されていた概念が使用されなくなったので、Kormoran は辛辣に次の様に言う。弾頭と心臓弁はついでと云うわけか、彼女の映画がモラルでもミサイルでもなく、単純に一定の実用品取り上げ、我々の商人達、とりわけ女性商人達に推薦したならば、なお良かったらうに、もし彼女等が一定の非常に高い品物を今一度アメリカで買わなければならないならば、オハイオではなくテキサスの方が良いと。

統一後の Gerrelind Baumanova の映画に対する姿勢を巡るシーンは非常に興味深く、最後の Kormoran の言葉は Kant のユーモアと風刺とウィットに満ちた言葉でもある。

(XI)

医療器部門の長 Aufderstell は躰の良い客、驚くべき人物として、事態を理解していず、それまで発言しなかったが、いまや一定の相手にではないとは云え、非難は不適切だ！ と述べ、改めて Kormoran 博士がたった今口にした言葉は適切でないと言い、非難は実際の状況には適していないので、それを徹底的に論破出来ると思うし、Schluziak 婦人は心臓弁に関して既に説明済みと信じていたと語る。彼は Baumanova と彼は此处では客なのだと言い、「Baumanova の後悔」が我々の話題になっているのに、Kormoran を悩ましたりしない事柄をどうするつもりなのかと問いかける。それに対し後者は彼女に上述の目前にある再生後の目標を達成する様に勧め、前者には話を先に進める様に促す。前者 Aufdertell は躊躇するが、Felix Hassel にも勧められ事態を報告するつもりになり、その場に居た者は様々な反応を示す。彼は Schluziak 婦人が黙っていた事を不思議に思うが、ジャーナリズム関係の Ilse と Bauma-

nova には口外しない事を求め、Henkler にはその得意な秘密厳守を願い、他の者達にもコメントを与える。

その上で彼は製造会社 Shiley Inc. がその顧客達に対し心臓弁の欠陥を発表し、その欠陥によって利用者の生命が終わると語る。勿論全ての人工弁が一定の不確実さを生みだすのではない事を Kormoran は知るが、それが何時起こるかは判らない。此処で重要な知らせが自分には当て嵌まらない文明化された人間達とその様な知らせに余り反応しない事が、それぞれのその場に居た者達に就いて描かれる。皆その事実より逃げようとし、嘆いたり、絶望的仕草を示したりしないし、Kormoran を護る為に、愛の為に抱きしめたりもしない。しかしジャーナリストの Ilse にはまだ優しい心があり、彼を慰め様として、「そう言う事全ては明日の SPIEGEL 誌に書いてあるが、比較的年老いた(中年の)人達は若い人達程、危険に晒されていないともそこに書いてある。」(48) と語る。此処で始めて今まで述べられなかった彼女がハンブルクから携えてきた知らせが明らかとなる。Kormoran は比較的年老いた(中年)と老いた(老人)の相違を述べる機会が今あるかどうか考えた末、「そう、慰めてくれる人よ、昨日のそれと同様、明日の SPIEGEL 誌もその信頼性がただ測られている。」(49) と言う。Kormoran に託された Kant の痛烈な皮肉、批判が此処に在る。

彼の断言に明らかに満足して、彼は Aufderstell 氏に彼にも彼の妻にも Felix Hassel 教授にもそれは新しい事ではないと語り、Aufderstell は更に新しい事があると言い、語り出す。彼の言によれば、Grit の官庁を通して人工弁は中央供給所に来たのであり、それは形式的には財務省の或る指導者の依頼によるもので、その男は或る日、炭素で出来た西側の人工弁一つ当たり、東方のワゴン二台分の褐炭が必要なのか？ そうだとしたら国全体が炭坑になるか、そのかなりの住民が何の供給もない地底王国に行かねばならぬと言ったと述べる。その言葉を引き取った Grit は人工弁が素材を非常に浪費する事を示唆し、彼女の夫 Horst は彼女が Kormoran への供給が滞った時、苦勞した事を述べる。Aufderstell は Hassel 教授に叱られる前にその場を去りたいと言い、財

政面でオハイオからの輸入が中止された時、何が企画されたか Grit は覚えていないが、彼は覚えていると述べ、ポーランド関連を利用する事になったと語る。Grit も覚えている事を認め、ポーランド関連とは Łódź の素人細工人達で、創意豊かな人々だと語る。Ilse も言葉を挟むが、Gerrelind は誰も彼女の後悔に関心を抱かなかった事を苦く思い、Ilse の言を無視して怒りを紛らし、誰かがその人々を記録にしたのかと尋ねた。そこから更に話が進展するが、テラスの上をつらそうに歩き回っていた Kormoran も上述の事態にコメントした後、Felix Hassel に彼のクリニックもその人工弁をテキサスやオハイオからではなく、Łódź の店から手に入れたのかと問いかける。Felix は彼もたった今、聞いたのだと答え、Aufderstell が何に就いて話したのか、理解出来なかったが、それが深刻な意味に関わっていた事は理解出来たと述べ、しかしその緊急性は目下、Kormoran によって克服されたと迄、言う。

一方、彼は Anne より視線で、しっかりする様に示唆され、彼の胸中にある半狂乱の状況に対して助力出来る者は此処には誰も居ないが、その状況を知るのは彼だけだとも示唆される。その点、彼女の器具によって体腔内と云う暗黒街を検査される彼女の患者達より彼の方がよりましたとその視線は語り、その有利さを利用し、彼の人工弁と云う機関室に命令し、不安を圧倒し、それを書き記し、彼女と彼自身の為に彼自身の中に介入し、彼自身にブレーキをかけるよう語っている事を知る。彼はそれを試み、ゆっくり歩み、彼の誕生日の客達に序でに「ポーランドの弁には何ら反対ではない——それは我々の心臓が再び魂の居所になるように確実にしてくれる。ワルシャワと云うヨーロッパの心臓に似て。しかし、ポーランド Łódź からの知らせは糸鋸と蠟付け用筋合金を思わせるし、Aufderstell 氏によっても、明日の SPIEGEL 誌によってもチタンと高度に重合された炭素から出来た器具ですら折に触れて壊れる事を我々は知っている。」(50)と述べる。しかし彼の不安は克服されていないし、嘗ての東ドイツの住民は同じ嘗ての社会主義国の製品を信頼せず、アメリカの製品を信頼している事実を示しており、当然とは云え、興味深い。彼はしかし妻 Anne の視線に牽制され、それ以上深入りしないが、ただ「此処に集まっ

た医学はポーランドのルーレットとテキサスまたはオハイオの拳銃の交換に就いて実際にどう思うのか?」(51)と尋ねた。Kant の例の西部劇好きが Kormoran の同じ西部劇好きのヴィットに富んだ言葉として表れている。それに対し Änne もヴィットを込めて Felix が心臓を石で造るのを妨げたし、嘗て手術前に新しい部分を検査したと答えるが、内視鏡を心臓弁と区別は出来るが、オハイオ製の弁を Łódź 製の弁とは区別出来ないと言ひ、本来の問いは移植された付属品が Shiley 氏の代わりに Czilanowsky 氏に由来する時、それがどう違うのか? と云う事だと述べる。それに鋭く反応した Felix Hassel は存在したのは Shiley 弁だと主張するが、医療器部門の長 Aufderstell は決然と教授に反論し、Shiley 弁ではなく、見かけ上の Shiley 弁で、その模造品だったと主張する。更に Herbert Henkler がポーランド製の弁、Łódź 製のクローン、ポーランド製のフィアットも悪くないと言葉を挟み、前者がポーランド製の Shiley 弁も悪くないと同調し、もう盗用模造品に就いて話さざるを得ないだろうが、それはほぼ完璧な仕事だったと述べる。それでは何処に欠陥があるのかと憤激した Kormoran が尋ね、それらの器具は死者を出さないのかと述べ、Aufderstell はほぼ完璧だがただ完全に完璧ではなかったと語る。そこで Kormoran は、それらの弁はことごと鳴らないが、ショパンの曲を弾くのかと皮肉を言う。それに対し前者は化学の問題で、Łódź の製品は合金にずれがあり、オハイオの Cincinnati のトリックに到達しなかったと答え、Hassel 教授は一寸した合金を除いては Łódź の例の盗作者達は完璧な仕事をしたのか、何故より良い仕事をしなかったのか? と質す。或る意味ではしたのだと Aufderstell は応じ、我々が怪しげな Łódź の零細企業の人々と呼んでいる彼等はオリジナルな機器が壊れる箇所をほんの少し強化したと答え、一旦彼の報告を中断するが、Änne に促されて、東ドイツの供給領域の機器が西側の供給領域の機器より故障率が少なかったと語る。それに Birchel 婦人がいつもの如く反応し、Herbert Henkler はまたもドイツの分裂とは! と語るが、最近迄の分裂に就いてよりもこう云う分裂に就いては悲しげには見えなかった。

この当たりの Kant の描写に彼の統一後の姿勢が反映しているが、ともか

く盗用されチタンを織り交ぜた人工弁の情報が直接、患者 Kormoran に係わるので、皆が彼にお祝いを言い、それぞれの喜びの姿勢を示す。旧副大臣 Horst は Czilanowsky 家と自己の Schluziak 家と云うポーランド出身を誇り、彼の妻 Grit も同調し、Ilse は義兄 Kormoran の首に飛びつき、ハンブルグの人々より多くの事を知ったと喜び、Gerrelind はデータに忠実だと社会主義世界体制の優位性を証明するのは必ずしも容易ではなかったが、上述の例はそうであり、不機嫌にそれに突き当たったのが遅すぎたと語り、Felix Hassel は Aufderstell と堅く握手をする。しかし Anne はオハイオの Cincinnati からの情報では夫 Kormoran は希望よりも救われる可能性が少なく、以前よりも危険に晒されている事を単純な夫に言うべきかで、喜びには同調しない。此処も非常に興味深いシーンと言える。

此処で彼女と彼と云う夫婦の特殊な関係が述べられ、「一心同体(一つの心と一つの魂)と云うのは彼等の共同連帯の表現として殆ど当て嵌まらなかった。」(52) とある。彼等は互いに好きだったのだが。つまり一人の心(心臓)はもう一人の心(心臓)から極端に自立して機能していた事以外は普通だったのだ。此処にドイツ語では Herz が心、心臓の意味を持つ事に架けた Kant のいつものヴィットがある。従って魂の場合は別で魂同士は矛盾してなかったとあり、彼女は結局、先程の事が情報なのだ!と言ひ、今日は何日が誰か偶然に知っているか? と尋ねたのに対し、六月十四日と Aufderstell と Birchel 婦人が機械的に答えたのみでなく、彼女の忌まわしい問いに笑わなかったのは彼等だけできなかった。その日が誕生日である Kormoran は何の悪気もなしに全然知らないと言ひ、様々な考えに沈み、彼を知らない観察者には彼が安心して居るところか、幾らか愚かに見える程であった。彼の頭の中は、オハイオで考案され、Łódz で改良された弁のお陰で、心臓弁破壊の可能性は彼には当て嵌まらないので、再び完全に健康なのだと云う考えで一杯であった。彼は自然な心臓弁と人工弁が病気であった部分が、健康な部分で装置されたと考えており、病気であっただけでなく、うまく行く筈であったろうし、うまく行くと考える。オハイオの改良されていないアメリカのいわば乱暴者の人工弁は全く彼の中には

入っては来ず、そうしてくれたのは旧東ドイツの財務相であり、その様な人工弁を Grit は鉄のカーテンの向こうから取り寄せなかったし、彼の鐵の部分も鐵のカーテンのこちら側から取り寄せたので、それは大丈夫だし、その限り彼も大丈夫だと考える。此の辺りの表現にも Kant の風刺とヴィットが見られ、旧東ドイツへの愛着が伺える。引き続き十年或いは八年は生きられると云う Kormoran の安堵の気持ちが語られる。しかし、幸せの余り愚かに見える彼の顔や彼の思考の中を見る彼の観察者は少なく、人々は彼にお祝いを言うが、自分等が何時の日かそれを必要とした時、再び此の様な好ましい奇跡が期待されるのかと自問する。しかしそれは東の間の熟慮に終わる筈であった。生命が Kormoran の場合の様に二重のリズム(注：二つの心臓の鼓動)の交代を二度に亘って(注：自然な心臓と人工弁装置後の心臓)許されたと云う事は殆ど推量されなかったからである。

何れにせよ、Kormoran がより年を取るであろう事、十年いや八年への展望を取り戻した事、とにかく彼の恐ろしい特殊性から脱出した事、最も普通の死を迎えるであろう事が分かり、彼の為に特別に振る舞う理由は無くなったので、仕事の上でも男性重視の傾向とか様々な理由から、此処最近無気力に近かった Gerrelind は Anne に励まされ Kormoran の二重の意味でのお祝いにカメラが許可されなかった事を改めて残念だと述べた。何故なら此の様な気分の高揚に彼女は多分今一度、生涯には陥らないだろうから。Anne も賛意を示し、彼女の妹の Ilse も椅子の上に跳び上がり手を突き上げて賛同するが、前者はハンブルク関連のニュースはポーランド関連のニュースを Kormoran の許可なしには知る事が出来ないと揶揄する。

また Kormoran の記念日への他の参加者達はあの混乱と脈拍不整と云う事態から如何にして祝賀的な状況になったのか知らないかの如く振る舞ったのであり、Grit は Aufderstell の首に飛びつき、二つの人工心臓弁の分、二度の口づけをし、彼女の夫 Horst はそれに異議を唱えず長い間眺めてきた目で、救われた Kormoran を楽しげに眺めた。そして東の秩序の逆転以来、市民 Kormoran がもはや彼の監督下になく、kormoran が祝い事の経過の中でどうし

てその最初に自分に関連する日記(メモ)が自分に手渡されたのか知るであろうと確認した時、彼は先ず、Birchel 婦人の動きに気付いたのである。彼女は丸めた新聞紙を指揮棒の様に、しばしば鼓手隊の指揮杖の様に、しばしばそれ以上に棍棒の様に操作し、あの「牧師さんは牛を…」と云う有名な農業労働者の歌詞の部分をおさみ、そして例の流浪の左翼と名乗る楽団が、今度は三人の年老いた小柄な女性だけでその歌が辺りの楓の地域を揺るがす程に庭から行進してきた。その歌声は藪と草地を通し朽ちかけたテラスの上まで響き、「懇願し、希望し、今はそこ迄、明日より正義が起こる。誰にも彼にも、会社にも。歌え、歌え、誰にも彼にも、会社にも。(中略) 牧師 Gauck はその牛を！」(53)と歌詞を振り、彼女等はテラスの下に勢揃いした。そして並んだ彼女等の半円は目立たなかったが、太鼓とシャルマイが加わった嘲笑や冗談や怒りが満ちた物が耳に響いてきた。彼女等は更に、創作した時局に係わる歌詞等を韻を踏まえてソロで歌い合唱でリフレインした。その歌詞は牧師 Gauck がガーデンパーティを開き、主賓は Joe McCarthy で Gauck が牛に乗って行進したとか、Gauck 官庁の好みのうるさいコックが Gauck の牛でステーキを焼いたとか、Krause 氏は Gauck の牛の牛乳から乳脂を掬い取ったり(上手い汁を吸ったり)しなかったが、それでもただ予測する所、その牛乳は飲んだとか、Gauck 等の右傾化に関わり、Kant の Gauck 官庁への批判は鋭く、やはり彼は統一ドイツにとっては危険な作家と言えるのである。(54)

そこには Kormoran も居て、芸術に草臥れたような仕草をした時、彼女等はたまたま、行進して去ろうとしており、去って行く彼女等に Felix と一緒に激しく手を振り、鳴り止んで行くリフレインを歌った彼は贈り物のある机の所へ行きバイオノミックス (Bionomics) と云う珍しいタイトルの本を手に取り「十分間横になる。」と Anne と皆に伝えた。更に改めて八年は年を取る事を強調し、彼の回想記の最初を読んでみると述べ、皆が関心を抱いて彼が戻るのを待つ様に期待した。

(XII)

第三章で Kant は読者に向かって、此処では語り手の不快な要請、つまりジャンルの柵を跳び越え下手な詩人に走ると云う望み、従って或る全く愚かな行為に就いて語るであろうと先ず述べ、彼が Mama と云う語を辛うじて書いた時に Mama ist Rama と云う韻を踏んだ意味のない詩を書き、正書法を教えられ、数十年たつて正書法はより確かになったが、詩への関わりは全くそうならなかったと語る。それは救いようのない好みと邪道の名誉欲の例であって、ほぼ忘れ、治癒されたが、よりによって牧師さんはその牛をと云う歌で再び揺り起こされたと述べる。彼はその歌の高地ドイツ語第二節「復活祭には牛は太って丸々 (drall)、聖霊降臨祭には死んでいた、牛小屋で (im Stall)。」が狭い限界の中で広い内容を伝えており、死と生以上の相違は存在しないと述べ、この二行の節は脚韻を踏んでいるだけでなく、内容でも韻を踏んでいると、「復活祭と聖霊降臨祭」及び、誤解の余地のない生の記号「太って丸々」と死の記号「死んでいた、牛小屋で」を挙げる。またその詩の一般の聴取者への明瞭さの故の問題点を指摘する。つまり「死んでいた」は芸術上の欠陥で、未知の作者が半ば隠喩的な「冷たくなっていた」としなかったのは顕著な謎であると語り、更に牛が月並みな型として使われている臨機応変な替え歌の詩人達が存在すると述べる。つまり我々を或るテキストに引き付ける為に、需要が減る時、収益を上げる経営手段の規則が文学的な物にも取り入れられたと云い、第一節のオリジナルな例の三行の歌を挙げ、それは理想的だと語る。(55)

その理由としてその歌が楽しい集いの歌から一定の時代の一定の領域に対する政治的暗示へ移行する事を述べ、その例を挙げる。一方オリジナルな歌は最後のドイツ身分制国家と紋章動物、つまり大公国メクレンブルク——シウエーリンと牛を暗示しているが、強さの象徴である牛 (Stier) が愚鈍を意味する牛 (Ochse) と解釈される事も免れないとも彼は語る。

語り手は続けて、シュレースヴィヒ＝ホルシュタインとメクレンブルク間に現在は経済上・イデオロギー上の厳しい境界がある事、今日政治的名誉欲を抱いた多くの神学者達が歌の中の牧師になるべく東の方から来ている事、その内

の一人には彼等の原理、つまり宗教改革以前ののさばり坊主気質がとりわけ見られる事、それらは後からの翻案者達にとってどうだったのかと Kant ならではの牧師 Gauck への痛烈な批判皮肉を言う。更に流浪の左翼楽団が積極的に当てこすりを考えたなら、牛を意味する Ochsen の訛り Ossen が統一後の旧東ドイツ人への蔑称 Ossi に容易に変わり得た事はどうだったのかと述べる。(56) 正に興味深いコメントと言える。

語り手は此处で再び読者に向かって、彼の散文が理解される為に鐵の足枷のような脚注を付けてないかと問われているだろうかと述べ、それを否定する。そこで伝承されてきた輪唱の今日の目的への適用性の場合には別だと述べ、牧師と牛に係わるオリジナルの歌に地域と時代と云う境界を超えたアクチュアルな嘲笑を盛り込み、常に牧師と牛に拘る事は愚かな天性の努力であると語る。では様々な困難を抱えるこれらの詩句の長所は何処にあるのか？ それらはなしで済ますわけにはいかない何を語るべき事に付け加えているのか？ そして書き手がそれに入り込みたくなる詩句に於いてとりわけ魅惑的な事は何なのか？ と語る。その答えは簡単だと彼は言い、怠け者でもとりわけ勤勉でもない彼が机に長いこと屈み込んでいると、あの牛の生と死の内容の歌に係わる知らせを紙に記す考えが浮かぶと述べる。何故なら散文作家の彼は包括的でなければならないからだと具体的な例を挙げてその論理を展開し、散文作家は状況語に拘束され、散文は釈明であり、浪費であるとも語る。故に彼と云う書き手はそれをはばかり、怠け者であるが、そうでないとしたら、復活祭には太っていた牛が聖霊降臨説には死んでいたと云う知らせで満足出来る詩人が羨ましいのだと述べる。手短かに言えば彼はその天才によって満足出来る抒情詩を好んで書けるであろう。考えてみれば、全ての山の頂に憩いありと書き、更に三行加えれば著名になるからだ！ と語る。それに対し、散文作家はエジプトに於けるヨゼフに就いて書く事を望むと、ガレー船に乗り、城塞禁固を体験し、数年の自由剥奪の判決を受ける事になると述べる。(57)

彼は上述の浪費を恐れた故に幾つかの本を書けなかったし、あの Mama ist Rama と云う詩以来、考えた事、為した事と云うモットーにより書くのを好ん

だ彼には理想と作品の間の道が長すぎたので、事柄が抜け落ちたと更に述べる。彼はそれを後悔し、書けなかった著作類を彼の最高作品と見なし、計画の断念は快くはなかったので、その理由を、書く努力は恐れなかったが、探求する努力を恐れた事に求め、その結果『広告塔』と云う長篇小説が生まれなかったと語る。しかも書き手が未だ長篇小説を書いた事のない時期にと述べ、彼は出来たらそうしたかったし、広告塔が素材を提供すると思えたとい、彼はワットが蒸気機関にニュートンが重力に至った様なイデーに到達したと大げさに語り、一人の男が広告塔から無数に重なって張られた広告を引き剥がすのを見て、多くの生が葬られ、厚板を張る事によって多くの生の一つが再生されると云う考えに至ったと述べる。そこから更に、一枚一枚張る (Schichten) 事によって最初のポスターとなり、物語 (Geschichten) が生まれ、或る運命の各層 (Schichtchen) が、ポスターの中の人生が生まれると、考えを展開する。Kantらしい話の展開である。誰の人生かと云えば、何故ポスター貼りの人生であるてはならない理由はないと語る。そこで彼はどの様にしてポスター貼りになるのか？ ハードルを乗り越え、ライセンスを取り、ポスター貼りとな乗るのか？ と考え、問い合わせなければならぬと語り手は知っているが、有効な広告塔規則に関する情報を何処で手に入れるのかは知らないと述べ、それは問い合わせねばならぬと云う散文の報いだと語る。

続けて彼は抒情詩人が、おー薔薇よ、清らかな矛盾と書き、それで全てが語られるのに、散文作家にはそうは行かず、薔薇をそれらしくなく叙述すると、様々に異議を唱えられる例を述べる。事態に対する知識の欠如に帰する苦悩は詩人には未知の様だと語り、感傷性が必要で、バラードにすらしばしば憤激で充分だと述べる。彼は更に広告塔に関して散文作家には重要な幾つかのデータを挙げる。

此処で彼は人々がホーマー以来、叙事詩人には包括的な叙述を期待し、その創作は時代を味わう掘り起こしを前提にすると述べ、『広告塔』と云う思考された小説に今拘れば、どれ程過去と云うものが Litfaß 氏(注：広告塔の考案者)のメディアにその沈殿物を見出すか叙事詩人は考えざるを得ないと語る。また

その小説の主人公の広告塔への回顧を進展させ、張り重ねられて古びた広告を通して馴染みのないものへ彷徨わせると叙事詩人はとりわけ文化と消費に係わる事が注目されるとも述べる。何故ならこのコミュニケーションの手段はそれに与えられたキャラクターを維持しているからで、そこにはサーカス、劇場、コンサート、バレエ、映画、文学的催し、選挙公約、スポーツ、展覧会、国際見本市、ソフトウェア愛好者、緑の週間等々が張られているからだと述べる。興味深い話の展開である。

しかし小才のきくベルリン人のコミュニケーション用円筒に見出される筈の知らせに付いて列挙する際には注意深くあらねばならぬ事は遅くとも此処では通用する。何故なら事細かにやると間違いが入り込むからだと言語手は読者に語りかける。彼はまた確かに物語の語り手には片付いたニュースが張られている広告塔を通して過去を眺め、その人生の痕跡を読み取る一人の広告塔職員を考え出す事が無条件に許されているが、データが問題になる時、あらゆる鷹揚さはなくなると語る。語り手は更に散文作家はファンタジーよりむしろ調査に係わって来るので思い違いは許されないし、創作以前に発見が必要だと述べ、それ故に『広告塔』と名付ける筈であった叙事的作品が滑り落ちたと語る。しかし広告塔とそれに纏わる人生を回想する男と云うストーリーの核は事実として存在するので、その事態は書きやすいと、誰にでもそれを試みる様に勧める。勿論その為に幾つかの調査が必要だが、どの詩よりも多く支払われると述べ、例の流浪の左翼と名乗る楽団が歌った昔の歌の作者達が昔のドイツの貨幣を手に入れ、目にしたと誰が信ずるだろうか?と語り、彼等は何も得ようとせず、何かから免れようとし、彼等の内の一人が「復活祭には牛は太って丸々、聖霊降臨祭には死んでいた、牛小屋で。」と云う詩句に成功した時、幸せで震えたのに違いないと述べる。

此処で語り手は叙事詩や広告塔や長篇小説や調査等々に就いての考察を此の物語の途中に挿入した目的が、つまり比較的長い中断と云う感情の発生が今や達成されたかの様に見えるると述べ、ストーリーに戻り、結末を先送りしない必要性を語る。その理由として更に Paul-Martin Kormoran のテラスの上で

今再び事態が進行する事を挙げる。

(XIII)

果たして事態は進行したのかどうか！ と語り手は述べ、その理由として新しい人物 Ruth Regentraut の登場が多くの点で二人の女性 Ilse Henkler や Baumanova に似ていた事を挙げ、それをその現れ方に見る。しかしそれでも彼女と二人の女性の間には共通性と並んで相違があったと語り、日刊紙やドキュメンタリー映画に携わる者達は公表や暴露等、いわゆる開く事に関わり合うのに、葬儀屋は覆い埋葬し隠蔽するからだと言を展開する。しかし決断なしには何も進行しないのであり、愛する者が他の者があつと云う間に逝ってしまった場合には全くそうなのだと語る。誰にでも起こる出来事、死を前にすると残された者はそれが一回きりの出来事であるかの様に振る舞うので、その時いわゆる決断が必要で、葬儀屋はその仕事に掛かり、遺骸が望むらくは天国にいる何かによって片づけられるやいなや、親族は確かに多くの同情を望んでいるが、彼等はさっさと地獄へ落ちればよいと判らせる術を心得ているに違いないと、H. Kantらしい観点を述べる。

その決断が、その様な決断を必要としない場所へ Ruth Regentraut を登場させたのであり、彼女が今や彼女を必要とせず、Aufderstell 氏以外誰もいないテラスへ誕生日を祝う花束を抱えて上ってきた時、彼は Kormoran の予備品の花瓶を差し出し、彼は彼女の姿を描写する。ホストも客も近くに居ないのを確かめて人民所有企業 INTERMORS 葬儀屋の Nottke 同志ではないかと問い合わせた彼に、彼女は、今は NNBB、即ち »Nihil-Nisi-Bene-Beisetzungen« 葬儀社の Ruth Regentraut だと答える。統一直後の人民所有企業から資本主義的企業への転換が此処にも現れている。彼は支離滅裂なラテン語の名だと云い、宣伝には効果がないようだが、死は常に起こるので企業危機に堪えると思うのかと問い、彼女は、何時も人は病気になるからとは云え、医学は余り企業危機に堪える職業部門とは云えないだろうと答え、対象が多いが故に競争もそれ相応で、電話帳の黄色い十八頁を占めると云い、印刷業や助産

婦の少ないページ数と比較する。それに対し彼は助産婦に関してはアイディアに富む人々が、死を引き受けると同様に生誕を引き受けていると云い、資本主義社会の企業間競争の洗礼を受けた旧人民所有企業を語っており、非常に興味深い。続けて二人の間で資本主義社会での企業努力と企業間競争、組合、労働条件を巡る組合の功罪に就いての対話が進行する。彼は立ち上がり改めて背の高い魅惑的な四十代初めの彼女を詳細かつ無遠慮に観察し、それを取り繕うとするが、彼女は流暢に答え、彼に Kormoran の友人の一人なのか尋ね、彼はそうではないがそうだとしたら今日からだと述べ、しかし一瞬間、示唆的な考えに拘らせてくれと云う。その考えに興味を示す彼女に、彼はそれが体系的な思考で、人生を豊かにする手段で、そのイデーのより広い応用を求め、それを徹底的に活用すると語る。彼は更にその考えには将来性、可能性があると言われ彼女に云い、それは様々な事態に当て嵌まり、裏返し可能な思考、反復性の思考、多様な思考であると述べ、それは彼オリジナルなイデーではなく、或る劇作から引き出したと語る。それは『アダムとエヴァの事態に関して』(In Sachen Adam und Eva) と云うその当時、成功し、誰もが知っていた作品で、人類の誕生と云う点で彼の念頭に浮かんだ助産婦達にも当て嵌まり、その劇作家は、離婚の前に先行する大騒ぎを同様に結婚の前にも先行させたら婚姻と云う制度のためにならないだろうかと云う問いを投げかけたと述べる。

それに応える形で、離婚した Nottke 婦人である現 Regentraut 婦人は、彼女等夫婦は旧東独の作業班 (Brigade) として夜中まで論争したと云い、「結婚が離婚の様に非常に困難であるべきなのか、或るいは離婚が結婚の様に非常に容易であるべきなのか？」(58) と興味深い問いを投げかける。その発言は裏返し可能な、多様な思考だと彼は云い、婚姻の初めと婚姻の終わりも良いが、生の終わりと生の初めの場合はどうなのかと述べ、一方には我々は多大な支出をするのに、何故他方にも多大な支出をしないのかと問いかける。彼女は彼女の生業に罪を着せたくはないが、職務の遂行は市場経済の一部で、収益がものと言うと述べ、彼はそれでは何故彼が念頭に置く領域ではそうでないのか？ と更に問いかける。資本主義社会に於ける問題性を別括している応答と言えよう。

彼が念頭に置く領域とは助産婦に係わる事と心得ている彼女は、新生児の場合にも死者に係わる場合と同様、それ相応のサービスを伴うマタニティドレス、ベビー服、乳母車等々や洗礼、命名式との関連で平均して同じぐらい稼げ、次第に量が増えてくると述べる。彼が云いたいのはそこなのだと言いはり、彼女の洞察力を手中にはしていないが、医療企業の男として葬儀社の一定の洞察力を手中にしていると語り、彼女のサービスは純然たる火葬を遥かに越え、家族による遺体以外は全て調達しているとその例を枚挙する。正に資本主義的発想の展開であり、それに応えて彼女は新生児の場合にも変わらないと語り、私立産院もあると述べる。しかし彼は私立産院が思慮分別と多くの金に関わり、葬儀社と同様に産院を多数の人々が訪れ多大な金が落ちなければと、葬儀社との相違を述べる。それに対し彼女は競争と利益の分配がもたらす弊害を云い、幾つかの産院の統合——緑の輪の家 (Haus Grünreif) とか言う名の——と組合連合によるスタート時の資本調達があればと語る。彼は机越しに身を乗り出し、彼女の肩を叩こうとし、商社のロゴはもう緑の輪と決まった、彼女には裏返し可能な思考の才能があり、彼はあらゆる形で協力出来ると述べる。

しかし彼は緑の輪なる企業は、出産補助に病院と健康保険の普通のサービスと云う従来の考えがある限り、緑の枝にはならないと云う考えを述べ、Kormoran が現れるのを待ち侘びる彼女に、死者を埋める事はアメリカの西部劇に見るように、個人でも出来るが、葬儀社がその仕事を長いこと行ってきた。勿論誕生も家族に係わる事だが、収益を上げる死者の処置と異なりそのような状況には至らなかったと語る。その上で彼は、彼女が裏返し可能な思考に徹すれば、多くの意識の苦勞が彼女を待ち受けると言ひ、彼女は或いは二人を待ち受ける、何故なら彼女の脳裏にある事は一人で実現しようとする彼女の能力を超えるからだと応じる。その事が理解出来ない彼に彼女は説明する。つまり彼女が脳裏に描いているのは単に彼がその基礎を築いた組織の事で、結婚に係わる訴訟は離婚に係わる訴訟に類似し、出生研究所は埋葬研究所に類似するので、彼女が先ず構想する人生研究所は助産用施設と埋葬用施設で開発された原理と方法と職務遂行のただ徹底した多様な適用に係わってくると述べる。徹

底的な適用とはその多様性と云う点で人生全般に当て嵌まるとまで彼女は語り、簡単に言えば当然非常に曖昧な彼女の構想は人生が成り立っている全体的な組織に係わる課題を引き受ける事が出来ようと云う。しかし詰まるところ彼と彼女二人が予定している緑で満開な家と喪服を伴う彼女が知り尽くしている家の間で待ち受けているのは産業時代の指揮下にある人間が克服する術を知らない多様で大きな問題であると語る。

彼女は続けて小学校への入学を一つの例に取り、そこでは一定の年齢で入学できると云う事だけでなく、すでに様々な障害がある人生行路があり、多すぎる決断がなされねばならぬ事を挙げる。つまり入学用の備品の問題だけでは済まず、時間、財政、趣味、意向の導入によって処理されねばならない問題があると述べ、その考えを展開する。彼女がその考えを展開するのは新入生が腕に掛けている入れ物であり、それには思い切った主張のシンボルが、その持ち方にも情報があると述べる。従って、彼女はその入れ物を持つ新入生の人生行路の結果も予測できるし、その持ち方の平和的な形に就いても事情は同じであると主張する。つまり入れ物の中身に係わってくると云うわけである。言うなれば貧しい両親の子供達が豊かな両親の子供達とその中身を比較し、場合によっては前者がその中身を売る時、即ち学校と云う人生行路最初の商売が人生行路の最後に迄、及び得ると語る。その様な事を考える時、親権者が愛する子供等に多くの贈り物や慰安用エレクトロニクスの最近のハイテク製品を与える事が目的に叶っているかの問いに陥った時、何が危険に晒されているか判ると彼女は述べ、新入生との関係に必要なのは両親が持ち合わせていない最高の教育上の経験であり、空想豊かな感情移入であると言う。

此処には現代の資本主義的社会に於ける教育批判が見られるのであるが、H. Kant が更に彼女に語らせるのはまさに営利に係わる資本主義的発想でもあり、そこが非常に興味深い。「今日の母親達も父親達もその様な特性を持つ時間と忍耐を掛ける用意が殆どないのです。その打開策として唯一、或る団体の結成が、或る最高の財団、恐らく WEDUDALE 財団、いわば人生の道(筆者注: Weg durch das Leben の頭文字を取ったもの)にとっての財団、とにもかくにも

或る組織の結成が提案されているのです。Aufderstell 氏はそれを癒しからなる、全存在を覆うドームとして考えねばなりません。」(59)

Aufderstell 氏は Regentraut 婦人の脳裏に浮かんだものは悲観的にも、国家を越えるものにも、機関としての国家の様にも響いて来るが、希に見るポジティブで快い私的なものと思ったのである。